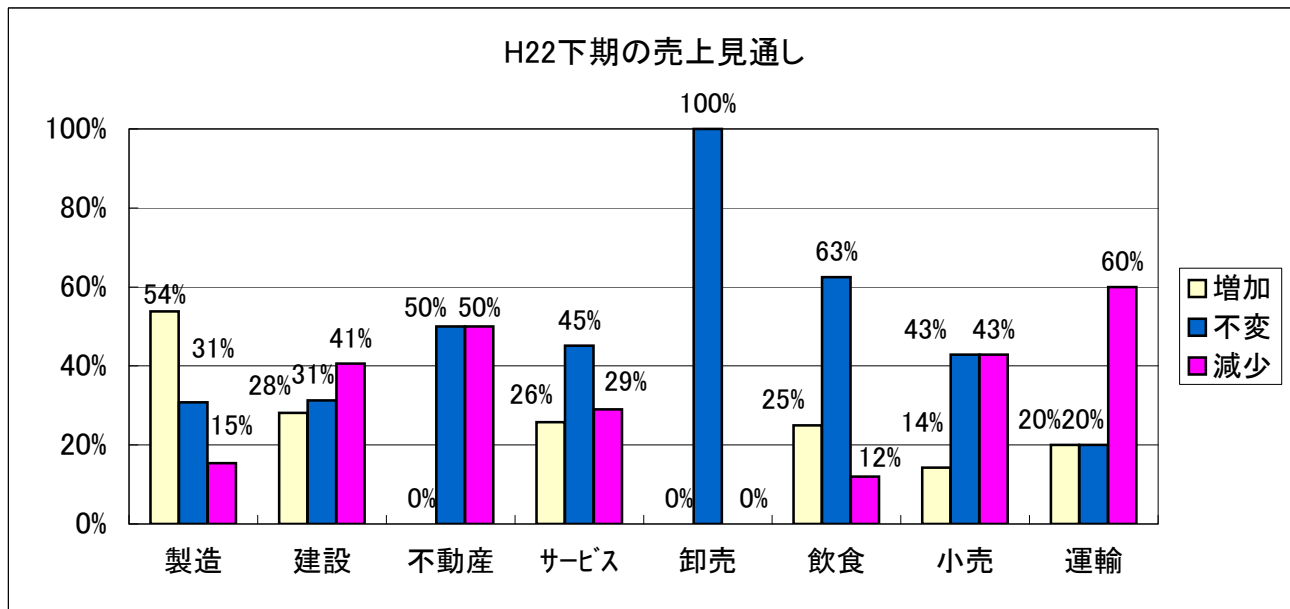


調査2 今年1月～6月を水準とした、今年7月～12月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに前頁で表示してあるのでここでは省略する。

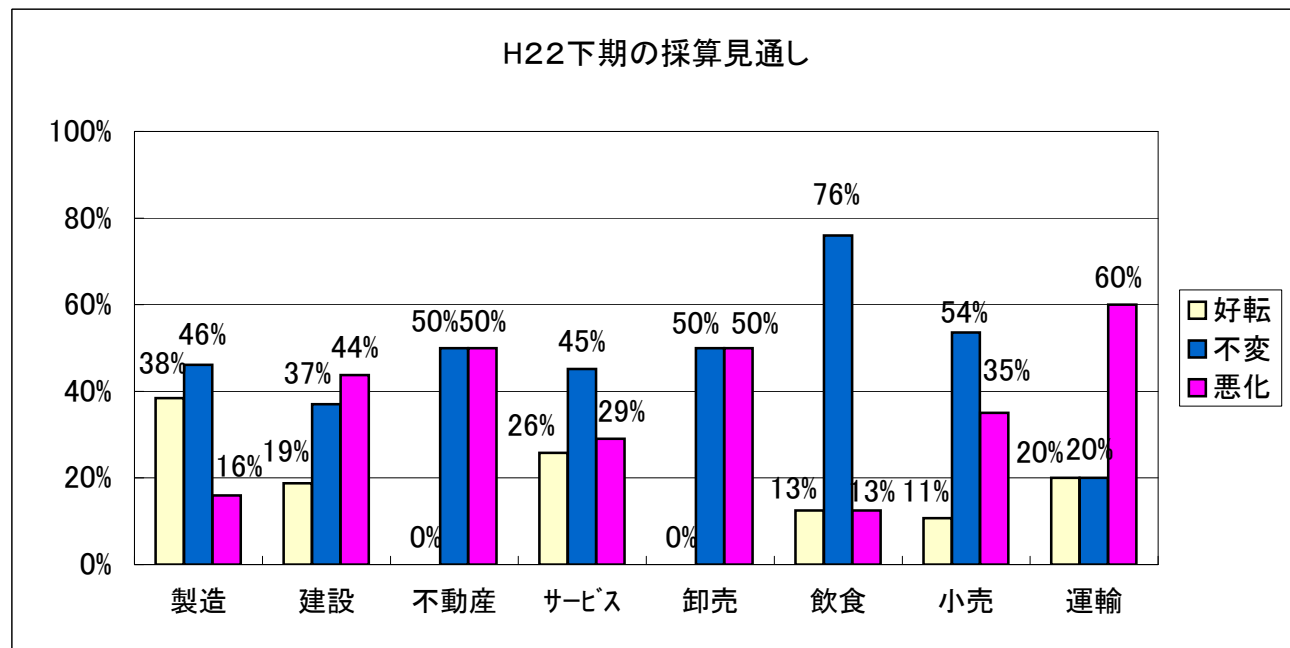
①売上見通し

業種別でみると売上が「増加」する見通しと回答したのは、製造業が54%と一番多く、次いで建設業(28%)、サービス業(26%)、飲食業(25%)と続いている。製造業が上向きになっている状況が見られる。「減少」の見通しが多い業種は、不動産業(50%)、小売業(43%)、建設業(41%)となっている。



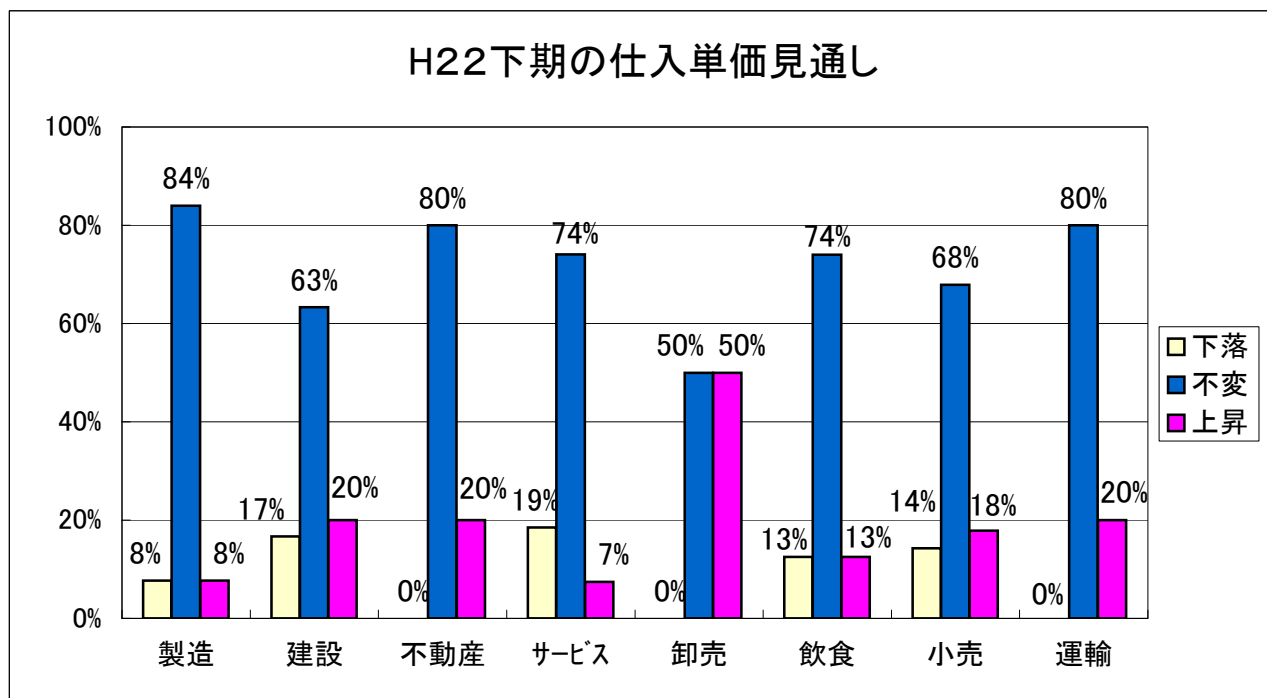
②採算見通し

「好転」の見通しの多い業種は、製造業(38%)、サービス業(26%)、運輸業(20%)と続いている。「悪化」の見通しの多い業種は、運輸業(60%)、不動産業、卸売業がともに50%と次いで建設業(44%)、小売業(35%)と続いている。



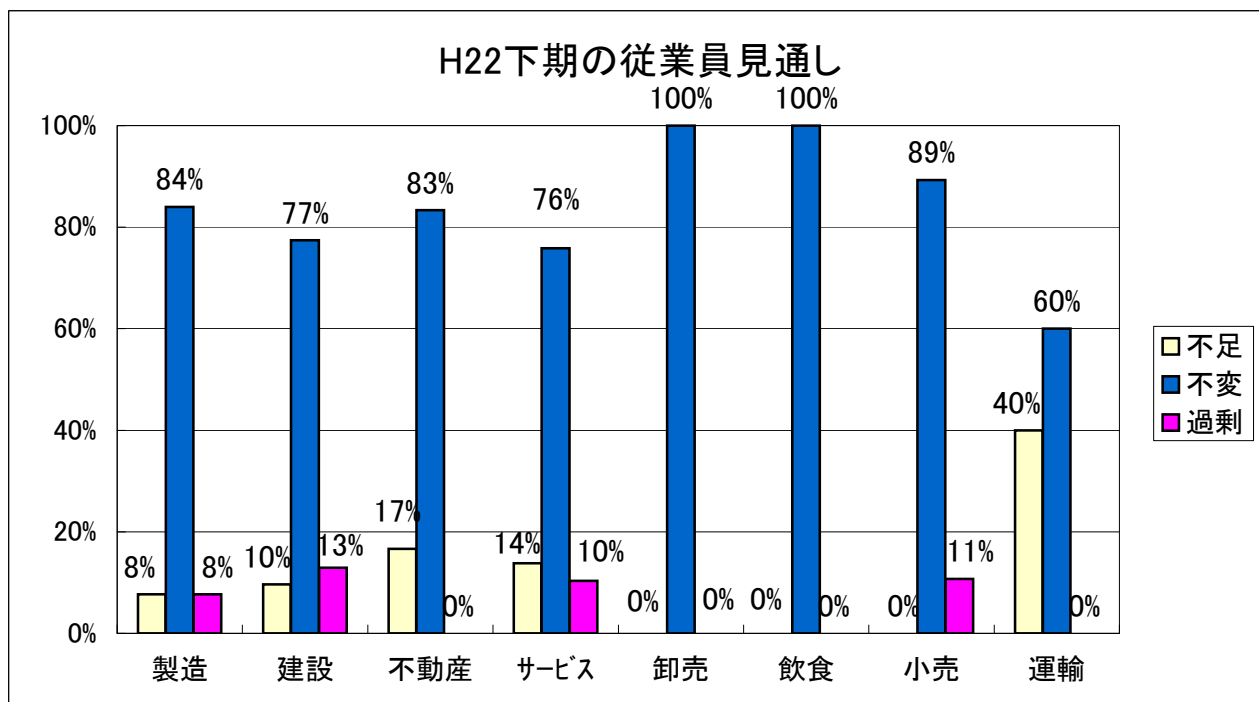
### ③仕入単価の見通し

仕入単価については、全業種の69%が「不変」と回答し、「上昇」の見通しが多い業種は、卸売業(50%)が一番多く、不動産業、建設業、運輸業が20%と続いている。



### ④従業員の見通し

全体で見ると約83%が「不変」と回答している。そのなかで、「不足」が顕著なのが運輸業(40%)であった。

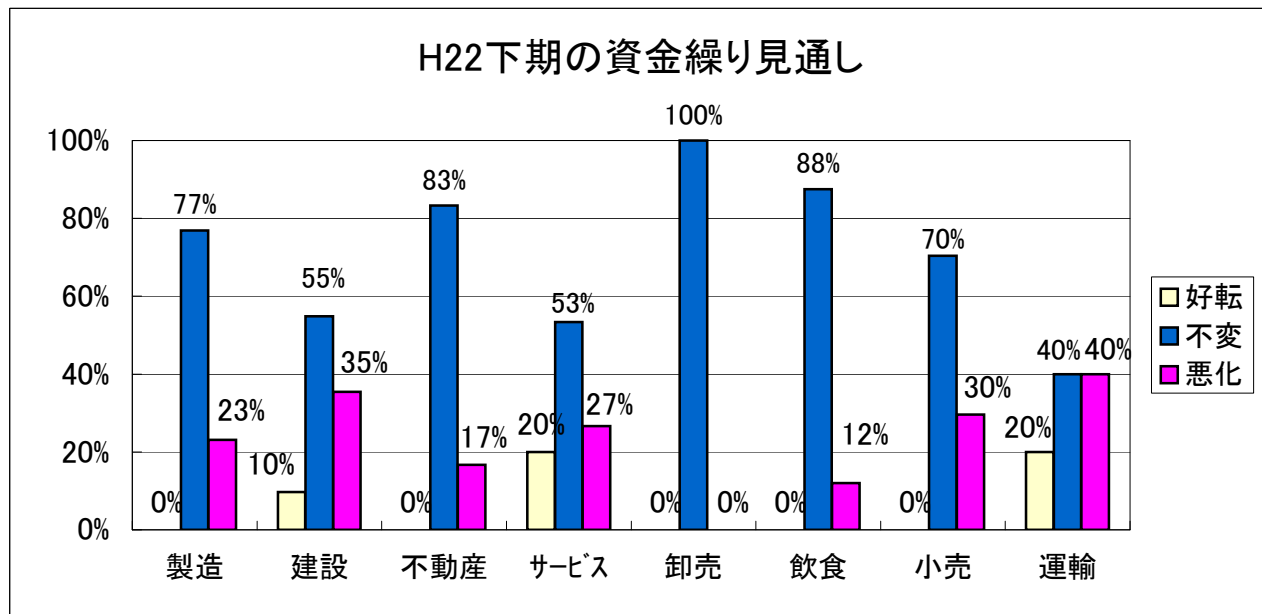


⑤業界の景気動向見通しについて

P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

資金繰りについては、「不変」が全体で73%で、「悪化」の見通しが多かったのは運輸業(40%)、建設業(35%)、小売業(30%)、サービス業(27%)とつづいている。「好転」の見通しが無いのは、製造業、不動産業、卸売業、飲食業、小売業の5業種であった。



⑦金融機関の融資状況見通し

融資状況の見通しが「厳しい」と回答した業種は、卸売業(50%)、飲食業(24%)、建設業(23%)、小売業(22%)となっている。比較的「不変」が多い業種は、運輸業(80%)、不動産業(71%)、製造業(62%)となっている。

